

平成29年度 第2回佐久市総合教育会議

日時：平成29年12月14日（木）
午後12時45分～13時45分
場所：佐久市立岩村田小学校
中校舎3階視聴覚室

1 開会

（小林企画部長）

これより平成29年度第2回佐久市総合教育会議を始めさせていただきます。意見交換までの間、進行を務めさせていただきます企画部長の小林です。よろしくお願いたします。

それでははじめに、柳田市長よりご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

（柳田市長）

皆さん改めましてこんにちは。

教育委員の皆さんにおかれましては、大変お忙しい中、本年度2回目の佐久市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今回は初めて市役所を出まして、こちら佐久市立岩村田小学校で開催をしております。会議に先立ちまして、学校給食の状況や、改築工事の状況についても皆さんと一緒に確認をさせていただいたところでございます。それぞれの教室に入っただいて、児童と触れ合う機会も楽しいものだなと改めて感じたところでございます。ちょうど改築に関して子ども達から質問がありまして、この旧の岩村田小学校は、レーモンドによる建築でございまして、質問したのが1年生でありましたので、日本一の建築家によってこの学校は造られ、そのバトンを引き継いで新たな小学校へという話をしたところであります。この校舎改築がそれぞれの子ども達にとって、誇りを持てるような、あるいはまた夢を描ける、思い出が残るそんな校舎となっていくことを願っているものであります。皆さんにとりましても、語らいの貴重な機会であったなと思っておりますが、また今後の糧にいただければ大変ありがたく思います。

今回、総合教育会議の議題として意見交換をさせていただくのは、中学生スポーツ大会であります。来年度新たに市内の全ての中学1年生を対象にして、佐久総合運動公園陸上競技場を活用し、開催を計画しているものであります。中学生

という非常に感受性の豊かな時期に仲間から期待されること、その期待に応えること、また、その折に結果的に期待に応えられる時もありますが、期待に応えられなかった残念な気持ち、悔しい気持ちもあると思います。それもまた学びのタイミングではないかと思っております。スポーツを通して、そのようなことが創出できれば嬉しいなと思います。この会議を通して、教育委員の皆さんと考えの共有を図る中で、よりよい大会のあり方を検討していきたいと思っております。

最後になりますが、より率直な意見交換という中で、お話、お気持ち、あるいはお考えを交換できればと思っておりますのでございます。

大変お忙しい中、ご参集いただきましたことに御礼申し上げます。冒頭のごあいさつとさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

(小林企画部長)

続きまして、榑澤教育長からご挨拶をお願いします。

(榑澤教育長)

本年度、第2回を数えます総合教育会議の開催にまず感謝を述べます。このように、義務教育の現場をお訪ねして、総合教育会議を持つというのもなかなか良いものだと思っております。一緒に給食を摂りながら子ども達から難度の高い質問を浴びてきました。「どうしたら偉い人になれるのですか?」という質問の後の市長のアンサーが見事でした。自分は偉い人でもなんでもないという前置きをして、本をよく読んで、人の話をよく聴くと立派な人になっていくんだよという話をされて、私がいろいろ言うのを止めさせていただきました。子どもと楽しい食事を摂らせていただいたと思っております。

さて、この岩村田小学校でございますが、平成27年4月分離新設校として佐久平浅間小学校が誕生し開校しました。それに伴い、そのタイミングで全面改築工事に着工という段取りを迎えたわけであります。31年度末の竣工をめざして、先ほども説明がありましたが、今、順調に工事が進められているところであります。確か25年度頃だったと思いますが、私は時の校長としてここにお世話になっていましたが、その時に基本設計を固める協議に参加させていただく中で、一番の岩村田小学校の課題は、体育館の耐震強度でした。その耐震強度に課題がある体育館を先に着工して整えようとしていると、全部竣工するのに6年かかるということでしたので、私はPTAの役員さん達といろいろ相談しながら、あの3.11を耐え抜いた体育館でもあるのだから、それから、岩村田小では、いざ大きな地震があった時には体育館へ避難ではなく、校庭へ避難ということはもう充分トレーニングしてありましたので、工程が前後してもより早く完成した方がいい、ということになり、当時の市当局とご相談させていただく中で、

6年の予定が5年になったのです。その結果、31年度末に完成ということにこぎつけたわけです。その関係された皆さんに本当に心から感謝しているわけがあります。子ども達をご覧いただいたように、もう既に完成した部分もこれから工事が進む部分がありますが、元気いっぱいこの環境を活用して学んでいて、素晴らしい子ども達一人ひとりの姿が拝見できてありがたいことだなど、教育は環境であるといえますけれど、その環境の中には人の環境と物の環境があり、このように物の環境を生かしていただいて、お子さん達の育ちを見ることができるとは本当に喜びであります。いずれにしても、分離新設に加えて、この岩村田小も全面改築というご判断をいただいた柳田市長、関係当局に改めて感謝の気持ちでいっぱいでございます。

さて、本日の総合教育会議であります。総合運動公園陸上競技場を活用しての市内中学生スポーツ交流大会の開催についてが議題となっております。本年度は総合運動公園陸上競技場で、中学生の北信越大会が行われたわけであり、大会に参加したアスリート諸君の声も、大会運営に関わった県内の色々な方々の声もいただきましたが、素晴らしい競技環境ですね、素晴らしい陸上競技場ですね、という声一色でありました。大変嬉しい声をいただいたわけであり、しかしながら、我が佐久市が誇る陸上競技場が一部のアスリートの皆さんだけのためだけに活用されていくというのはもったいないと思うわけです。そんな観点からも、今日議題となりますがスポーツ交流大会を開催して、佐久市に育つ中学生が3年のうち1回は、そういう頻度で必ずあの素晴らしい施設の恩恵を被れる、素晴らしさを享受できるという考えで計画をしていくことは、とても素晴らしいことで意義深いことだと思います。競技者として、あるいは応援者として、施設を有効活用して素晴らしい感動の時を刻めるかなということ、今日それに関わっていろいろな声を頂戴できればと思います。市長公約でもございましたし、また、子ども議会でも野沢中のお子さんからもそのような機会をぜひ作ってもらえないかとの発言があったわけでありまして、その具現に向けて大会の方向性や運営のあり方等について、お声をいただければそれを活かして有意義な大会にできるのかなあと思っています。そんなわけで今日はよろしく申し上げます。

(小林企画部長)

次第の3報告事項でございますが、実施計画における教育関係施策につきまして企画課長より説明をさせていただきます。

3 報告事項

実施計画における教育関係施策について

(土屋企画課長)

企画課長の土屋でございます。それでは、私の方から平成29年度に策定をしました実施計画における教育関係施策につきまして、資料1で説明をさせていただきます。

実施計画でございますが、平成30年度から32年度までの3年間の計画でございます。これを毎年ローリング方式で見直しをしており、所管からの実施計画の要求は毎年6月から7月上旬で行い段階的な査定を経まして策定をしております。一方、当初予算の編成につきましては、予算要求がだいたい11月上旬でございますので、実施計画の策定から時間差、タイムラグがありまして、その間、事業内容や補助制度、あるいは他の事業との絡みなど、変動要因がございます。このため実施計画で盛り込んだ事業が、そのとおり全て事業化されるとは限りません。財政担当により精査されまして予算案として議会に提案をされてまいります。その中で、新規にあがる事業もございますが、そうでない事業もございますのでその辺はご理解をお願い申し上げたいと思います。

それでは、1ページをご覧くださいと存じます。計画の策定に当たりましては、策定方針を定めまして、第二次佐久市総合計画の将来都市像の実現をめざしております。また、緊急性、必要性、あるいは費用対効果、地域経済の活性化など多方面から検討を行いまして、事業を厳選したところでございます。

3ページをご覧くださいと存じます。実施計画の対象事業は、建設事業が総事業費1億円以上、また、ソフト事業は今後、ハード事業からソフト事業への転換が進むことが見込まれますことから、本年度より新規で単年度事業費50万円以上のものを対象としております。ただし、「まち・ひと・しごと創生」に資する事業、起債充当事業につきましては、事業費に関わらず対象としてございます。実施計画の構成につきましては、図で「施策の大綱」として示させていただきます。第二次総合計画の「快適健康都市 佐久」～希望をかなえ 選ばれるまちを目指して～という将来都市像を実現するために、この7つの柱により様々な施策を実施しようとするものでございます。教育分野につきましては、(1)生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくりとしてございます。本日は、教育分野の具体的な事業につきまして、主に新規事業を中心に説明をさせていただきます。

それでは、7ページをお願いしたいと存じます。事業番号が2番でございます。『小学校英語教育推進事業』につきましては、平成32年度から始まる、次期学習指導要領の実施に向けまして、移行期間中から小学校3・4年生へのALTの配置を実施してまいります。4番の『SAKU コスモス育英基金奨学金資金給付事業』は、武論尊氏からの寄附金により創設しました給付型奨学金の給付事業で

ございます。8ページをご覧いただきたいと存じます。11番『学校給食臼田センター整備事業』は、新小学校の建設に併せ、地元調整が進んでおります臼田センターにつきまして、基本設計へと進むものでございます。それから16番でございますが、『佐久平交流センターグランドピアノ整備事業』は、老朽化したグランドピアノの更新を実施してまいります。続きまして9ページをお開きいただきたいと存じます。23番『エストニア美術展開催事業』は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおけますホストタウン国として相互理解を深め、交流を促進するための事業でございます。27番『創錬の森整備事業』では、県立武道館整備に対する負担金、多目的運動場整備工事費等を計上してございます。10ページをお願い申し上げます。31番『総合体育館設備整備事業』は、災害時の避難所としての機能強化のための空調設備の改修やトレーニング機器の更新を実施するものでございます。

総合教育会議の場となりますので、併せて子育て関係施策につきましてもご紹介をさせていただきたいと思っております。17ページをご覧いただきたいと思っております。こちらは第4章となり保健福祉分野となりますが、3番の『年長児フッ素洗口推進事業』では、現在、小中学生で実施しておりますフッ素洗口につきまして、保育園・幼稚園の年長児童まで拡大をさせていただきます。それから18ページをご覧いただきたいと思っております。13番『子ども福祉医療費給付金窓口無料化事業』につきましては、給付金の支給方法を現物給付方式、いわゆる窓口無料化へ変更するものでございます。なお、方式の変更による受給者負担金の変更はございません。この他に、その上となりますが、12番『療育支援体制整備事業』や、16番にあります『子育て力向上（教えて！ドクター）事業』などの継続事業も併せて推進することにより子育て施策の充実を図ってまいります。

教育関係新規事業を主に説明させていただきました。説明は以上でございますがよろしく願いいたします。

(小林企画部長)

ただ今企画課長より説明をさせていただきましたが、皆様の方から何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

先ほども説明がございましたが、現在、来年度当初予算の編成が始まっておりまして、実施計画で示された事業の精度をより高めより良いものとしていく作業が行われております。このため実施計画で盛り込んだ事業がそのとおりそのまま事業化されるものではなく、財政当局の精査によりまして、より確実な内容なものとしたしまして、予算案として提案されてまいりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

それでは、次第の4 意見交換となりますので、ここからの進行は柳田市長に

お願いをいたします。

4 意見交換

佐久市中学生スポーツ大会について

(柳田市長)

実施計画について説明がございましたが、今後これが予算編成ということになりますので、ここまでは企画部企画課で進めて、この後に今度は財政に移りまして、平成30年度に何を行うということ、その時に3年間、概ね計画でいくとどのような財政見通しとなるのか、裏にありますので、そういったものを見ながら平成30年度、制度の拡大をしていく、このような作業が年明けぐらいに理事者査定として行っていくことになりますので、また調整していきたいと思えます。

それでは、佐久市中学生スポーツ大会についてであります。事務局から大会の計画について説明をお願いします。

(春山体育課長)

体育課長の春山でございます。

資料2でございますが、A3カラー刷りの資料に基づいて説明をさせていただきます。先ほど来、市長、教育長の方からも説明がございました、佐久市中学生スポーツ交流大会でございますが、これを来年度から実施しようとするところでございます。この大会の趣旨でございますが、市内の中学生のスポーツ大会を開催することによりまして、まず一つ目は、交流生徒、小諸養護学校の生徒が普段あまり交流することがないということで、この皆さんにも出身の中学のところへ入っていただく、また、時期的なものも後で申し上げさせていただきますが、ちょうどこの時期に佐久市へエストニアの子ども達がいります。この子ども達もちょうど中学校の数ぐらいの生徒がいりますので、方法的にどのようにするかはこれからでございますが、海外からのお客さんも受け入れるということが一つでございます。

もう一つは、やはり競技をすることによって仲間を応援することや、その仲間から期待されること、あるいはそれに応えようとする達成感や、そのようなステージに立てるといようなことを中学生の時に体験していただければ、それから先の色々な人生に役立つのではないかと考えております。

それには当然、仲間と支え合ったり、悔しさを共有するなどいろいろなことがあることと、やはり他校との交流、これは当然公立中学だけでなく佐久長聖中学も入りますので、それぞれスポーツをやられている方は、スポーツでの交流はそ

の種目であるかもしれませんが、そうでない生徒さんもここでの交流ができるということが一つの目的でございます。

それと背景の中には、全国的に子どもさん達の体力や運動能力の低下が言われています。これは、突出したスポーツへ参加する生徒さんはいますが、そうではなく全くスポーツをしない生徒さんもいらっしゃるということの中で、この子どもの2極化の傾向があるということで、少しでもスポーツに携わってスポーツを楽しんでいただいて、良かったな、私も何かやってみたいな、そういう気持ちになっていただければということも趣旨の一つでございます。

もう一つは、佐久には素晴らしい陸上競技場が、先ほど教育長の方からも話がありました。今年度は中体連の北信越大会を佐久の陸上技場で行いました。非常に良い景色があつて非常に良い競技場であつたとお褒めの言葉をたくさんいただく中で、スポーツをやっていない子どもさんも、あそこに行つていただいて、場を見ていただいたり、芝生の中に入つていただいて感覚を覚えていただくことによって地域にはこんなに素晴らしいところがあるんだなと認識していただきたいということが趣旨でございます。

実施の背景でございますが、まず一つとして市長公約でございます。市長の公約の中では中学生1・2・3年生全体をとさせていただいた部分もございましたが、色々な話をする中では中学1年生がベストだろうということで今回の計画をご提案するところでございます。

(2)としましては、昨年度私どもの方で作らせていただきました佐久市スポーツ推進計画、この中に子ども達がスポーツにふれあう機会を多くとることが書いてございます。小学生はいろいろなスポーツ少年団等でいろいろな分野で大会や教室等携わることがございますが、中学生はそのような場がなかなか無いということもございます。ですから、こういうことも実施の背景に入つているところでございます。

(3)でございますが、今年度の子ども議会では野沢中学校の生徒さんから部活ではないスポーツ交流を通して仲間を作りたいというご提案をいただきました。それがその背景の一つでございます。

最後の(4)ですが、佐久市はスポーツ都市宣言をしており、これに合致しますので、この4つが実施の背景になっているところでございます。

続きまして、3番、左下でございますが、現在までの検討経過でございます。先ほども申しましたが、まず、なぜ中学1年生にしたのかという理由でございます。新しく中学生となつて半年が過ぎていろいろなふれあう機会、また、夏休み等を経験する中で、これからまだあと2年半ある中学生生活をしっかりとものにするには、やはりここで交流、あるいは自分への先ほども言いましたが向上心を高めるために中学1年生には最適でないかと考えているところでございま

す。

2番目といたしまして、部活動に参加している方はよろしいですが、文化部や部活に入らない方について、ここでスポーツをすることで運動をする楽しさを知っていただければと考えているところでございます。

競技種目でございますが、これは以前行われていた市の陸上競技大会や東信陸上大会のような競技性の高い種目に留まらず、どのような生徒さんも参加できるようなものも考えながら、競技性と誰もが参加できるものを兼ね備えた大会にしたいと考えています。

続きまして、この競技種目の内容でございますが、これはまだ私ども案があるだけで話し合いをしてございません。ですから今後この種目については話をさせていただき、そこで決めていただくことになっております。

校長先生からは、せっかく陸上競技場の施設に行くのであれば、マレットゴルフとかポールウォーキングを使ったものの中には入れてみたらいかがですか、とそんなご意見もいただいてございますので、今後これはいろいろな方と協議する中で検討してまいりたいと思っております。

その他でございますが、これは一番のところでございます。生徒さんが運営に参加して参画を進めれば非常に有意義な大会で、盛り上がる大会になるので、生徒さんを主体に大会運営に参加させていただいた方が良いというご意見、それと、浅間中には「お弁当の日」という日があつて、市内の他の中学校にもこういうところがあるようですが、このような位置付けにもして、当初は学校の給食に間に合うまでに帰るといった話もしていましたが、そのようなことも少し入れる中でこちらの方も検討していきたいと思っております。

最後でございますが、小学生では音楽会とミュージカルで一堂に会す機会がありますが、中学校はなかなか無いということで、佐久市はこのような特色のある授業があつてもよろしいのではないかとご意見もいただいております。

それと、現在、市内の公立の校長先生を集めた会議を行っており、そして、佐久長聖中学と小諸養護学校には私どもが出向いてこの説明をしているところでございます。年明けには第2回目の会議をしていく予定でございます。

4番の大会実施計画(案)でございますが、先ほどと重複いたしますので、期日だけ説明させていただきます。実施時期は、平成30年、来年の10月25日の午前中をこの日に充てるということでございます。これは先ほども言いましたように、位置付けとしますと、10月がちょうど体力強化月間となっていること、それと新人戦の佐久大会が一部残ってはおりますが、ほぼ終わっている状態、それと先ほどから繰り返しますが、エストニアとの交流事業がありまして、エストニアの子ども達がちょうど佐久市へ訪れているということでございます。

(3) 競技内容は、先ほども申し上げましたが、一応学校対抗ということでござ

いますので、学校対抗として教職員も参加できたり、場合によると地域の例えば区長さん、自治会の皆さん、地域の皆さんも参加できるそのようなしつらえができればと考えております。

イ、といたしましては、誰でも参加できるニュースポーツも取り入れる。先ほどから申し上げていますが、競技性も兼ね備えた中で、普段運動をしていない子もしっかり参加できるようなしつらえをしたいということ。

ウ、といたしましては、東京オリンピックとパラリンピックでは、男女混合競技が始まります。ですから男女混合の競技も何か入れていければと考えております。

(4) 競技種目は、先ほど申し上げましたので割愛させていただきます。

(5) その他といたしまして、ア、雨天時でございますが、やはり天候が悪い時も考えなければいけません。これは、私どもの総合体育館と総合体育館にあります小体育館、それと2階のギャラリー等を使って色々なことを考えていければと考えております。イ、保険等はこちらで用意をするということでございます。ウ、引率については、それぞれ学校へこれからまた話をすることとございます。エ、移動でございますが、私ども市が手配をしたバスでそれぞれの中学に来ていただければということとございます。長聖中学だけは、長聖中学のバスを使ってもいいですよという話をいただいておりますが、これも時間等の都合もございまして、これから要検討ということになってございます。オ、保護者につきまして、地域も皆さまもそうですが、観戦は可ということとございます。場合によると保護者参加の競技も出てくればいいのかと思っております。

最後でございます。5課題でございます。(1) 今、盛んに言われております、教職員の方に極力負担をかけない大会運営をできればと考えております。(2) としましては、私立中学、長聖中学と小諸養護学校との連携、調整をどのようにこれからしていくかということも課題の一つでございます。(3) といたしましては、地域の方々との交流・観戦の可能性、先ほども申し上げましたがPTAもここへ入ってくるかと思えます。(4) といたしましては、生徒が主体的に取り組めるような仕掛けをするにあたっては、色々な会議とか打ち合わせをしなければならない。そうはいつでもそう何回も取れないというところもございまして、この辺についてもどの様にすればいいのかというところも課題でございます。(5) といたしましては、競技性も兼ね備える中で、イベント性も加えていかなければならない中で、この辺をしっかりと、要は1年で終わる大会ではなく、2年後、3年後もずっと続く大会となるよう考えておりますので、楽しく参加したい、中学校1年になればこういう大会をやってくるという期待感もてるようなそんなしつらえができればと考えております。(6) といたしましては、新人戦、一部佐久大会は終わっているという話をしましたが、夏休みから新人戦、

部活、文化祭もありますので疲れている子どもさん達のいろいろなケアが必要かなと思います。課題の最後でございますが、(7) 学校間の生徒数格差を解消する工夫、浅間中学と浅科中学では当然人数が違います。どのような形でどのようにその学校格差を解消していくかというのがこれからの大きな課題だと言えます。

以上雑駁に説明させていただきましたが、来年度より私どもはしっかりいろいろな方と協議をしながら進めてまいりたいと考えております。ご意見のほどよろしく申し上げます。以上でございます。

(柳田市長)

説明は以上でございます。市長公約というところからもスタートしていますので、私の方からも説明させていただきたいと思います。

こういったものの発想というのは、これは佐久市の福祉計画にも表記させていただいたりしていますが、「幸福のサイクル」とさせていただいております。人が幸福を感じる考え方なのですが、「期待をされる」、「その期待に応える」、「褒められる評価される」、「愛されること」、というのが人格形成であったり、自分自身の活力ある暮らしだとか、生活などに導かれる。期待をされる、その期待に応える、応えようとするそういう機会に、学校生活というものは正にそういったものの繰り返しだと思います。この陸上大会を開くことによって私がイメージをした映像というものは、中学校対抗のリレーを行い、最終場面で何百人もの実際には千人を超える様な観衆となってきますが、その中で自分たちの代表が走り抜ける姿、あるいは懸命に走る姿、というものに声援を送っているというような映像のイメージであります。その中において、それぞれ子ども達がそのようなステージに個々に立ち、応援になるかもしれませんが、しかしながらその応援をする子が今度は違う場面で期待されるステージというものも作っていくことが必要であると思います。そういった期待をする、期待をされる、そのような関係を中学生の時に経験をしてもらいたいものだなあと思っておりますので、この競技性ということについては、私は欠かせない要素であると思っております。イベントに留まっている中においては、楽しい時間を過ごすことが目的ではないかと思っております。

私は挨拶の中で引用するのですが、日本語というのは訓読みに2つの意味を持つ漢字があります。例えば「優(やさしい)」という字は、「すぐれる」とも読みます。大変日本人の感性としては素晴らしい2つの意味を持つ漢字だと思います。「苦(にがい)」という字は「くるしい」と読みます。これも似ている言葉と捉えていいと思いますが、「楽(たのしい)」という字は「らく」と読みますが、時間を過ごす中において、楽しいことは楽(らく)なことではないと思うんです

ね。とにかく楽しかったことというのは、むしろ楽（らく）ではないことが楽しかった時間なのではないかと思います。

加えて、これは教育委員会の皆さんとも相談して、私の思いを入れさせていただいたものですが、学校の先生方に極力負担をかけない大会というところです。これは、学校現場が忙しいということもありますが、私は自分が期待をする、期待をされる関係において、その効果を上げていくための役割をしていただきたいと思います。テープを持つ、ストップウォッチを持つ、そういった役割を先生がするのではなくて、期待をしている子ども達への評価、あるいは期待をされている子どもに期待をされているという実感ができることを促進するような役割、あるいは、上手くいかなかった場合のフォローをどうするか、ある意味で言うと、体力的な負担にはならないかもしれませんが、職員の皆さんには少し工夫をしていただくことが求められる場面でもあるかもしれません。

そのような形の中で、こういった大会を開催してみればと思います。公約の時に全学年と申し上げた理由というのは、全ての中学生がグランドの中に入れるんです。観客席に全て入ります。見渡してみた場合、全ての中学生が陸上競技場に入れる都市というのはそれほど多くないのです。そういう意味では施設を有効利用していく、思い出の地にしていく、そういう意味でも兼ね備えられる場所ではないかなということでも考えました。運営上、現実的なものへの落とし込みということで中学1年生ということになってきたということでございます。

少しこの事業に関しては、思いを深めているところでございまして、皆さんのご理解をいただければと思っております。冒頭に申し上げましたが、皆さまからもご提案いただければなど思っているところでございます。皆さん、いかがでしょうか。では、萩原委員さん。

（萩原委員）

まず初めに、野沢中の小宮山さんの提案が、自分の夢が実現してきたということを感じるといのはとても素晴らしいことだと思えました。以前にもそのようなことが実際にありましたが、子ども議会で発言したことを本当に取り上げていただいて、それが形になってくるということが、その子にとっては一生の思い出というか、生きる力になると思います。それを見ている仲間にとっても生きる力になると思います。今回、これがまず素晴らしいことだと思えました。

それから、提案者の小宮山さんも言われるとおり、将来一緒に活動する仲間がめぐり合う機会に柳田市長さんが言われた競技性というものと、プラスして協調性があるもの、私は両面を入れていくことが大事だと思います。競技性では順番を争い、応援すること、支えることにも回るといふような競技も必要。しかしどの子も自分も楽しみたい、でも争うのはうまくいかないというお子さん多い

らっしゃるので、その辺の両方を満足させるためには、企画の時から子ども達の考えを吸い上げていくことが大事だなと思います。オリンピックのキャラクターを決める時に小学生が1票を投じるということがあって、とてもわくわくした映像を拝見しましたが、集まるのは数回しかできないと思いますが、そのような工夫で企画から参加できたらいいのではないかという思いでいます。

少し余計なことを言いますが、佐久市のスポーツ推進計画の中に、生涯スポーツという部分があります。全く別の角度ですが、そういうところを育てるのは、市で幼児期の運動遊びから、その子の中学校までを支えるくらいの気持ちでこの計画を進める。幼児期からの運動遊びの推奨をし、そして子ども達の心や脳や身体の発達も長期にわたって佐久市は支えていきますという大きな中のひとつの企画というように考えたいなと思います。

(柳田市長)

ありがとうございました。では、鈴木委員さん。

(鈴木委員)

スポーツを通して、市内8中学校の子ども達が集まるというのは、とても画期的な事業で素晴らしいなと思いました。中学生が他校の生徒と交流する機会がなかなかないので、ここに書いてある他校の生徒とたくさんお話しをして、たくさん交わっていただいて、そして交流を深めて子ども達の視野を広げてもらいたいなと思います。

スポーツなので、得意な子と不得意な子がいると思います。私は不得意な方でしたので不得意な子ども達の気持ちがよくわかるのですが、とにかくこのようなスポーツ大会というと前日から気が重くなって明日雨が降ればいいなと思うようなそういう子どもでしたので、そのようにならないように大会の実施計画の中にも競技内容の中に誰でも参加できるスポーツを取り入れるということになりましたので、ここをとても大切にしていきたいと思います。どんな子どもこの日をわくわくして楽しみにできるようなそんな大会になって欲しいなと思います。

それから、せっかくこのように楽しいイベントですので、親も何らかの形で参加できたらいいなと思っていまして、私はこの「お弁当の日」というのを提案させていただいたのですが、子どもと一緒に弁当を作る日というふうにして、お弁当はどんな形でもいいんです。おにぎりを握ってもいいですし、お弁当を詰めるでもいいですし、子どもとお母さんお父さんが一緒にやって欲しい、そんな日にしたら面白いかなと思いました。同じ台所に一緒に立つということで新しい楽しいコミュニケーション、会話が生まれるのではないかというところも期待

しています。この子ども達は、遅かれ早かれ数年後には自分で自分のご飯を作るという立場、環境に置かれると思います。その時に抵抗なく自分のご飯を作れるという子どもに育ててほしいと思います。「食事を作る」イコール「生きる力」に直結すると思い、「生きる力」を強く持った子どもに佐久市の子ども達にはなってほしいので、ご飯、お弁当をこの日に作った経験が、将来大学生になったり大人になった時に、そういえばお母さんと卵焼きを作ったな、なんてまた思い出してもらえたら嬉しいかなと思いました。

(柳田市長)

ありがとうございます。青柳委員どうぞ。

(青柳委員)

教員に負担をかけないと資料にも出ていますが、この話を先生達がどのように受け止めるかというところ少し心配なところがありました。しかし、提案に対して校長先生達が非常に好意的に受け止めたというところが非常に良いなと思いついて、市長が言われたように教師は学校の活動に対して効果を上げる役割がとても大事で、ぜひ先生たちにも前向きに取り組んでほしいなと期待しますし、今は物事を前向きにとらえようという教師が増えているような感じもしますのでそのような部分でも期待できるのかなと思います。

もう10年ぐらい前になりますが、小諸高校と小諸商業の校長をやった西村さんという民間人校長の方がいますが、西村さんがおっしゃったことで今でも強烈に印象に残っているのは、先生たちはまず否定から入るということ。何か新しいことをやろうとするときにまず否定から入るし、やはり、何というのか教師が持っている保守性みたいな部分が、意外と否定という立場から入ることが多いのですが、そうではないものが教師の中でも育っているということも思いました。それは大事なことだなと思います。そういうものが発揮されると良いなと思います。

それからもうひとつ別の面ですが、課題の(7)学校間の生徒数格差を解消する工夫とも関連してくると思いますが、このようなスポーツ行事をやると中学生の大会でも高校生の大会、学校のクラスマッチでもそうなんです、特にトーナメントでやると早く負けたチームの子ども達はあと何もやらなくなってしまい、何もすることがなくなってしまいます。高校などでは生徒がこっそりと帰ってしまうので、「帰らないように」等の指導が大変なんです、これまでの提案の中で話には出ていたと思いますが、そういうふうに最初に出場場面がありその後何も無くなっちゃうような子ども達がいないように、そういった全体の運営の方法も必要かなと感じました。

(柳田市長)

ありがとうございました。原委員さん。

(原委員)

申し上げることがたくさんありすぎて、ここでは全部申し上げられませんが、重要なことだけ述べさせていただきたいと思います。

全体として大賛成です。そのひとつは、「スポーツ都市」宣言という先ほどもお話がありましたが、そういったことや色々なことがあります、ぜひこういうことはやっていきたいと思います。ただし、課題については、先ほど青柳委員さんもおっしゃいましたが、教員の方が単純に「またそんなことを」と思われないうようにしていくには、最初に市長さんのお考えをお話しされましたが、そのように市長さんの考え方をある程度周知されないと、「また余計な」みたいなことになってしまったら、これはもう元も子もなくなってしまいますので、その辺をしっかりと基本に、要するに子ども達のためにやるんだよ、ということを徹底した方が良いのではないかと思います。これは、一般の会社でも、そんなことを言ったら失礼かもわかりませんが、だいたい課長など役職の人たちは「面倒くさいなあ」となってしまって、若い人はやろうやろうとなるんですが、いずれにしてもこういう目的を持ってやるんだということをまず教員の人達にしっかりと理解をしてもらうことがとても大事なことだと思います。

昔、もう60年以上前のことになりますが、我々も川東陸上というのが確かあった気がします。私はスポーツが大好きだったものですから、本当にわくわくして、私は違うスポーツをやっていましたが自分も参加したり、あるいは他の学校の人達と一緒にやるんだ、というわくわく感がとてもありました。それは、ぜひ今回もそういうことでやれればと思います。

この終了時間ではありますが、ここでは給食時間には各学校へ帰る、到着できるというように書いてありましたが、先ほど鈴木委員さんがおっしゃいましたように、できればそこで一緒に食事をするというのもとても大事なことのような気がします。それは、食育も含めて。学校へ帰ってから午後どうするのと単純にそんな気もします、できれば食事をそこでとった方が良いのかなと。そこで、例えば散らかさないで片づけるものはきちんと持って帰るなども教育のひとつかなという気がします。他にもたくさん色々なことがあります、簡単に言えばその辺がポイントかなと思います。

(柳田市長)

川東陸上というのは、どこのエリアで会場はどこでやっていたのですか。

(原委員)

あちこちで毎年違う場所でやった記憶があります。

(柳田市長)

参加するのは中学生ですか。

(原委員)

中学生です。

(柳田市長)

川東というのは、千曲川のですか。

(原委員)

千曲川の東だと思いますが。川東陸上と言ったと思います。

(柳田市長)

市中陸上というのが先ほど課長の方で話しましたが、私どもの頃は「佐久陸」と言っていて、野沢県民広場で野沢中、中込中、東中、浅間中が集まってやっていて、そのさらに昔には北御牧地域全体の大陸上大会というのか戦前戦後ぐらいでしょうか。

(原委員)

そうですね、私の親の代はやっていましたね。

(柳田市長)

伝説の大運動会みたいなものですよね。

(原委員)

今でも写真があります。

(柳田市長)

すごい人数でやられていたんですね。ありがとうございました。

(榎澤教育長)

今、過去の話題が出たところですが、私は中学現場に長くかかわっていた立場

でこの陸上競技大会の経緯をある程度理解していると思いますが、当時、今話題になったように、このエリアでは、南佐久陸上、小浅、小諸北佐久陸上、佐久市陸上、先の二つは「郡陸」と言っていました。佐久市は「市陸」あるいは「市中陸上」と言っていました、当時この場所では、4つの中学校が集まって東中を会場にした時期が歴史的には古いですね。そのうちに野沢の県民でやるようになりました。南佐久陸上は、小海中学が会場になることが多かったですね。小諸北佐久は、軽井沢や御代田が会場になったことがあると思います。いずれにしても、それぞれの郡陸、市中陸上が盛んに行われた時期は、学校の体育である程度陸上競技の単元が終わるとクラスマッチがそれぞれの学校であり、陸上のクラスマッチは学校内のクラス対抗で行って、その結果、上位に入賞した子ども達が佐久市陸上に挑んでいくわけです。ですからだんだんと体育の授業からステップアップしていくわけです。体育での授業、クラスマッチで活躍、佐久陸でも活躍、佐久陸が頂点ですので、その上は無かったんです。ところが、そうやって複数の中学校が集まった陸上大会は、全校で参加しますからみんなが選手ではなく一部の選手を応援する集団の方が大きかったんです。そして一堂に会してそれぞれの学校が関わっていましたが、暇な生徒はぶらぶらと歩いて行ってしまいうんですね。先ほど高校生が帰ってしまうという話がありましたが、そのような状況があって、実は私はそういう陸上大会で、陸上競技の競技に関わったというよりは、もう生徒指導に明け暮れました。どここのグループとどうも険悪なムードが生じているという場合には中に入って、体を張って守りましたが、現にトラブルとなってケンカが発生してしまったということもあって、それが平成の一桁の世代です。これはこんな大変な思いをして、大会自体は良い大会だけれど、こんな大変な思いをして運営をしていかなければならない教師の負担はもちろんだし、子ども達の中の変なトラブルが発生していくことによって被害を被るお子さんもいて、見直さなければいけないということで、実は結論を言うと、そのような実態から止めたのです。

今回、そういう意味では、その状況が復活してくる感じがしますが、色付けの仕方は少し変えながら復活していくわけですが、考えてみると中学校では部活動で対校試合ということはあって、それはどんどん地域からだんだん上にあがって行って、やがては全国にまで繋がっていきますが、この地域の中で部活動をとおしてということですので、バスケットボール部に入っているとバスケットボール部に入っている人間だけが中学校関係では他校の生徒と知り合える。このスポーツ交流大会の特徴は部活ではないので、中学1年生の誰もが、7中学校、8中学校のお友達と交流ができるということは、まさに野沢中の小宮山くんが提案していることが普段の部活の交流では絶対に成し得ない交流があってこのような大会が成り立つというこの魅力は大きなものなんだと思います。

現在ほどの中学校も落ち着いていて、ちょっとケンカが始まってしまうということはおそらく無いと思います。あったとしても簡単に事前に防げると思いますし、そういうことが無いからやった方が良くということではなく、積極的に大会をやることの意義を考えながら実施していければいいなと思っています。

過去において止めてきたものが、また話題になるということで首を若干かしげる教員がいるかもしれませんが、しかしこの大会の魅力、趣旨を PR することでノイズは出ないだろうと思います。あるいは、ノイズではなくて逆に教師自身も身を乗り出して前向きになるようなそんな大会運営になってくるのではないかという期待を持っています。以上です。

(柳田市長)

ありがとうございました。只今貴重なご意見をいただきました。

今回の議論を重ねる中において、小諸養護学校の参加やエストニアの交流の学生が来るタイミングにも合致するといった、色々な側面が加わってきているなと思います。目的であったり、意義というものが十分に現場に届くような工夫でありましたり、あるいはまた子ども達の企画参加ということも話題に上ったところでございます。

校長先生方からの好意的な受け止めというものを大切にして、協力体制で整えていきたいと思えます。また、こちらの方の総合教育会議でも議論があるかもしれませんが、定例の教育委員会等でもまたご意見等が賜れば引き続きお願いをさせていただきたいと思えます。

それでは、意見交換は以上とします。事務局から何かありましたらお願いします。

(土屋企画課長)

お疲れ様でございました。

次回の会議日程でございますが、教育委員会事務局とも協議内容を調整する中で開催をしたいと考えております。具体的な日程につきましては、調整した上で再度通知をさせていただきますのでよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

(小林企画部長)

全体を通しまして、皆さまから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは本日の会議は全て終了いたしました。これにて閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。